

# 進路指導室へようこそ3

前橋女子高校進路指導部

令和7年度 MJ 進路通信 第48号

令和8年2月6日(金)発行

## ■2月・3月の過ごし方について

令和7年度も残り2か月になりました。3年生の特編授業は来週月曜日までとなり、前々での授業は10日をもってすべて終わりとなります。ここからは家庭学習期間となり、各自で第一志望校に向けての準備を進めることになります。25日の前期試験を受ける人は、まだ2週間以上あります。「人生でMAXレベルで勉強した」と言えるくらいの追い込みを見せよう。限界まで挑戦してください。

下級生の皆さんには、是非これから3年生の姿をよく目に焼き付けておいてほしい。家庭学習期間になんでも、たくさんの生徒が登校して教室で自習したり、添削指導や面接練習を受けたり、学校という環境を最大限に活用して努力を重ねています。代々受け継がれてきたこの伝統を今度は皆さんたちが引き継いで、来年度以降の受験に臨んでいくのです。

## 3年生の皆さんへ

- 家庭学習期間に登校して個別指導を受ける生徒は、担当の先生とよく日程の打ち合わせをしておいてください（学校に入れない日をしっかりと把握しておいてください）
- ・私大の合否結果については、逐一正確に担任の先生に連絡してください（後でまとめて連絡、ということないように）。私大の合否については、何方式で合格したのかも含めて正確に伝えてください（同じ学科でも方式ごとで複数の合格をもらっている場合もあります）
- ・とにかく健康に留意して、最後まで頑張りぬいてください！！



## ■私立大学の入試が本格的に始まります

2月になると、私立大学の入試が本格的に始まります。私立大学を第一志望とする受験生にとってはもちろんのこと、国公立大学を志望する生徒にとっても私立大学の合否は大きな影響があります。本命の入試に向けての「試験慣れ」としての目的に加え、第一志望校の「滑り止め」として進学先を確保し、精神的安定をはかるというメリット（実はこれが一番大きい）もあります。国公立大学に合格した多くの受験生が言っているのが「私立大の合格通知が本番に向けての大きな支えになった」という感想です。

ただし、私立大については、それこそ無数の選択肢があり、2月以降に出願できたり、地方入試（学外試験）や方式別入試など、様々な入試のスタイルがあります。情報収集をこまめに行い、しっかりとした受験する校数や日程など、戦略をもって受験に臨むことが重要になってきます。



ここでは代表的な私立大入試スタイルの主な例を紹介します。

### ●試験日自由選択制

同一学部・学科で、試験日を2日以上設定し、受験生の都合のよい日に受験できる制度。受験生にとっては、併願スケジュール戦略が立てやすいなどのメリットがあります。

### ●方式別入試

同一学部・学科で、入試科目や配点などが異なる複数の選抜方法から選択して受験できる制度。得意科目を活かして有利に受験を進めたい人向けの入試といえます。

### ●全学部統一入試

学部ごとの試験日のほかに、全学部の入試を同一日に一斉に行う制度。複数の学部が候補にある場合、効率的に出願が可能になります。

### ●地方入試（学外試験）

大学の所在地以外の地域に試験会場を設けて行われる入試。自宅から通える範囲に会場があることで、体力的・経済的負担を軽減することができます。

## ■学年末考査に向けて～過去最高の自分に～

1・2年生は12日から学年末考査が始まります。今年度最後の定期試験。来年度に向けての決意を「過去最高の成績をたたき出す」ことで体現してほしい。1年間の集大成として、準備段階からこだわりをもって日々過ごしていってほしいと思います。期末考査が終わればもう次年度に向けての準備がどんどん進んでいきます。後輩たちも入ってきます。今回の学年末考査への取り組みが、そのまま受験に繋がっていく、という意識をもって試験に臨んでください。

## ■国公立大個別試験ってどうやって行われるの？

25日からは国公立大の前期入試が行われます（3年生には是非とも頑張って合格を勝ち取ってほしいですね）。全国一斉で行われた共通テストと違い、国公立大個別試験は大学ごとに作成された入試問題で行われ、受験科目やそのウエイトも大学ごとに異なります。国公立大を志望する受験生が受験する個別入試について、その特徴をまとめてみました。

国公立大学への入学を希望する場合、総合型選抜方式や学校推薦型選抜方式のほかに、一般選抜入試という選抜方法があります。一般選抜は前期・中期・後期の3期間で設定され、定員の多くは前期入試に割かれています（中期日程は公立大学が実施することが多く、後期入試は実施しない大学もたくさんあります）。受験科目は大学・学部によって指定されており、面接や小論文、総合問題などが課されるところもあります。合否の判定は、共通テストの得点と個別試験の得点の合計により判断されますがその配点比も大学ごとです。大雑把に分類するなら

### ① 個別試験重視型 ② 同等型 ③ 共通テスト重視型

の3タイプに分類されるでしょう。いわゆる「難関大」に分類される大学ほど、個別試験のウエイトが高い傾向にあります。志望校が決まった際、その大学がどのような配点比で試験を行っているかにより学習の重点や戦略も変わってきます。下表では、主な大学の2026年度入試の試験科目と配点を掲載しましたが、興味のある大学について是非皆さんも把握しておいてほしいと思います。

大学名(略称)	学部名(略称)	学科名+専攻名+コース名(略称)	日程	満点		共通テスト									個別試験									
				共通テスト	個別	受験教科数	配点									受験教科数	配点							
							国語	歴史	公民	数学	理科	外国語	英語リーディング	英語リスニング	情報		国語	歴史	公民	数学	理科	外国語	情報	総合問題
東北大	工	機械知能・航空工	前	950	2000	6	8	200	100	200	200	200	150	50	50	3	750	750	500					
筑波大	人文・文化学群	比較文化学類	前	630	1200	6	8.9	180	120	60	60	180	144	36	30	3	400	400	400	400				
群馬大	共同教育	学校教育教員養成[人文社会系<英語>]	前	850	400	6	7.8	200	200	100	100	200	160	40	50	-					300	100		
群馬大	医	医	前	475	450	6	8	100	50	100	100	100	80	20	25	2	150	150			150			
群馬大	医	保健[看護学]	後	425	100	6	7.8	100	50	100	50	100	80	20	25	-							100	
埼玉大	理	物理	前	950	0	6	8	200	100	200	200	200	160	40	50	0								
千葉大	法政経	法政経	前	475	900	6	8.9	100	100	100	50	100	80	20	25	3	300	300	300					
お茶の水女子大	文教育	人文科	前	400	400	6	8.9	200	200	200	100	200	100	100	50	2	200	200	200	200				
お茶の水女子大	文教育	人間社会科	前	400	400	6	8.9	200	200	200	100	200	100	100	50	2	200	200	200	200				
東京大	文科一類		前	110	440	6	9	200	200	200	100	200	140	60	100	4	120	120	80	120				
東京科学大	工学院		前	0	750	6	8									3	300	300	150					
一橋大	経済	経済	前	210	790	6	8.9	35	35	35	35	35	17.5	17.5	35	4	110	160	260	260				
横浜国立大	理工	数物・電子情報系[数理科学教育プログラム]	前	1000	1200	6	8	200	100	200	200	200	160	40	100	3	450	450	300					
京都大	工	電気電子工	前	225	800	6	8	25	50	25	25	50	25	25	50	4	100	250	250	200				
群馬県立県民健康科学大	看護	看護	前	500	200	5	5.6	100	100	100	100	100	80	20		-					100	100		
高崎経済大	経済		中	300	400	3	3.4	100	100	100	100	100	50	50	100	2	200	200	200	200				
東京都立大	システムデザイン	航空宇宙システム工	後	550	403	6	8	100	50	100	150	100	60	40	50	2	300	100			3			

東京大は1：4（個別試験重視）、群馬大（医）やお茶の水女子大（文教育）はほぼ1：1（同等型）。東京科学大（工学院）では共通テストの配点がなく個別試験の得点のみで判定します（共通テストを受けなくてもよい、という訳ではない）が逆に埼玉大では共通テストだけで決まってしまう学科も。東京都立大のシステムデザイン学科は個別試験の配点が403点（！）。中途半端な3点って・・・？とよく見たら調査書点が3点（調査書に何が書いてあったら3点もらえるんだ！？というツッコミの声が聞こえてきそうですね(笑)）。

個別試験問題は大手予備校のHP等で解答速報とともに配信されています。入試問題は、大学側から「こういう生徒に入学してほしい」という最も明確なメッセージです。家庭学習期間に志望校の入試問題を調べてみて（進路指導室前の廊下にある赤本は、1・2年生でも借りられます）、解けそうな問題があればじっくり考えてみる、そんな時間がとれるといいですね。